



特集 エー・エム・ジ
AMG
Q
32/48

AMGのメンテは ベンツと変わらない？

メルセデス・ベンツをベースに高性能化を図った AMG。徹底的にチューニングが施されたその走りはノーマルとは別格だ。ではメンテナンスの面ではどんな違いがあるのだろうか。修理工場に聞いてみた。

エンジンが壊れるようなトラブルを除けば AMGとベンツのメンテの方向性は同じ

エンジンの内部や足回りを中心にチューニングが施されているAMGだが、ベースとなっているメルセデス・ベンツと比較した場合、メンテナンスにおいてどんな違いがあるのだろうか。角目から丸目まで数多くのAMGの修理実績を誇るセントラルオートの子玉氏に、その実情を聞いてみた。

「角目世代のAMGはモデルによって多少違いがありますが、基本的にエンジン、ショックアブソーバー、スプリング、スタビライザー、マフラー、デフのファイナル、あとはエアロパーツといったところがノーマルと異なる部分です。丸目世代では、これに専用のブレーキが追加されます。これらのパーツは経年劣化により消耗していくので、ノーマル同様に定期的なメンテナンスが必要になります。だから基本的な部分においてはノーマルと何も変わりません。」

違うところと言えば、やはり専用

パーツの価格でしょうね。足回り関係のパーツについてはノーマルや社外品の流用ができるので工夫次第で維持費を抑えることができますが、エンジン関係のトラブルはそれなりの覚悟が必要。例えばヘッドガスケットは10万円以上しますし、内部のピストンなどがダメになるとさらに大きな出費になります。最初から出費のことを考えてしまうとどうしてもネガティブになってしまいますが、こうした最悪のパターンを防ぐためにどうすればいいかというのを考えるべきなんです。

例えば油脂類の交換サイクルを守ることや定期的な点検など、とても簡単なことです。エンジンが壊す人ほどこうした日頃のメンテナンスが疎かになっているケースが多いです。油温や水温を最適に保つことで、高価なパーツを使っているエンジンを

守ることができる。そもそもベースとなっているメルセデスのエンジンは頑丈なので、一般的な使用においてエンジンが壊れるというのは希なケース。やはりAMGと言っても基本が大事なんです。」

AMGはハイパワーゆえにノーマルよりも負担が大きい部分があることは確かだが、メンテナンスの方向性としては変わらないというのが現場の意見だった。また年式によってメンテの状況が異なるのもノーマルと同じ。角目世代ではクルマ全体のリフレッシュが必要な時期に来ており、オイル漏れやリアサス回りなどこれまであまり手を入れてこなかった部分に注意する必要がある。長く付き合うならエンジンヘッドやATのオーバーホールといった大物修理も検討すべきだろう。丸目世代ではエンジンが壊れるようなケースはほとんどないので、高価ではあるがブレーキ回りはきっちり整備しておく必要があるし、電気系のトラブルに注意が必要なものもノーマルと変わらない。



新旧問わず数多くのAMGを診断し、修理してきた児玉氏。ハイパワーゆえに足回りなどの負担はノーマルよりも大きいが、基本的なメンテの方向性は変わらないとのこと。■取材協力：セントラルオート TEL.048-930-6800



奥に見えるのが高価なAMG専用のカムシャフト。オイル管理が悪いとカム山にキスが付いてしまふことがあるので注意が必要。

角目代表：初代Eクラス(W124)

AMG E60		E500
¥6,120 × 2	タペットカバー	¥6,120 × 2
¥201,500 × 2	ヘッドガスケット	¥14,900 × 2
※ AMG	Fショック	¥51,600
サスキットは時価	Rショック	¥88,500
¥17,400 × 2	Fブレーキローター	¥17,400 × 2
¥14,700 × 2	Rブレーキローター	¥14,700 × 2
¥15,200	Fブレーキパッド	¥15,200
¥15,100	Rブレーキパッド	¥15,100



E60の純正ショックは時間をかければ見つかることもあるが非常に高価であり、単体ではなくサスキットとしての供給となっている。55系など高年式のAMGでは問題なく手に入る。ちなみに価格はE55で約16万円(フロント用)。

メンテナンスにおけるAMGと メルセデスの大きな違いは 専用部品の価格差

